自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入口に理念の掲示と毎朝申し送り時に唱和することで、一日の始まりと自覚を促している。 皆さんが「ずっとここに住みたい、生活したい」と思えるような支援を目指している	「ここがあなたのお家ですよ」と解りやすい言葉で理念を表し寄り添う介護を心がけている。職員も毎朝　理念を唱和することで共有し業務にあたっている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営委員会に住民の参加、地位機能化より、お米、野菜を購入してつながりを大切にしている。 防災訓練、敬老会への参加、お祭り見学、ボランティアの受け入れ、幼稚園との交流	地域のボランティアを受け入れたり利用者が地域のお祭りや敬老会に参加している。近所の人が散歩の途中に寄って話し相手になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民、市職員、一般企業の方の見学の受け入れを行い、認知症介護の理解を深めている。 又、災害の時、福祉避難所となるようPRをしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、入所者の近況報告、又会議の中で出た問題にも取り組んでいる。 地域の防災訓練への参加、防災体験、当施設の防災訓練への参加等行っている。	民生委員や地域代表等が参加し地域の情報を知らせてくれたり防災訓練にも参加している。消防署職員も参加し防災についてのｱﾄﾞﾊﾞｲｽも受けている。家族の代表者は一年任期で1名参加している。	開かれた会議にするため限られた家族ばかりでなく他の家族も参加できるような開催を期待したい。内容の充実を図る工夫を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新しい公共社会づくりでの地域での居場づくり、ボランティア祭り、ふれあい祭りに参加して協力関係を築いている。	市の関係課には折に触れ出かけ情報を得ている。地域包括支援ｾﾝﾀｰの主催のｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ連絡協議会に2か月に一度参加し情報交換などしている。職員が町づくり委員として協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング、また委員会を設置して、職員の研修を行っている。 ご家族の了解を得たうえで、安全第一で行っている。	身体拘束委員会を設置している。ミーティング内で新人職員の入職時や必要時に身体拘束をしない取り組みについて話している。玄関の施錠については施設の前が道路ということもあり家族の了解のもと安全を考え施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	介護拒否、言葉による暴力もあるので、職員は常に感情のコントロールに努めている。 職員同志のコミュニケーションを図り、ストレスが貯まらないようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けた者がミーティングで発表しているが、むずかしい問題であるので各職員が研修に参加することで理解を深め支援したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、施設長、管理者が行い、ご家族との面談を重ねている。 また日々の面会等で報告、説明を行うことで、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先への意見箱の設置、家族会、誕生会への参加等で、関わりを密にすることで連携につなげている。	家族会を年二回開催し要望や意見などを聞いている。月に一度の支払日に訪問する仕組みになっておりその都度要望など聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見箱の設置、ミーティングでの意見交換を行い、職員の思いが発表しやすい雰囲気つくりに努めている。	担当制になっており利用者への関わり方などﾐｰﾃｨﾝｸﾞ内で意見を聞いている。行事やレクレーションなどの提案や意見を取り上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間、職員の体調の把握に努め、職員の要望を受け止め、改善すべきところは改善に努め、働きやすい条件や環境にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員研修（内部）、社会研修参加の奨励（参加費補助）している。 研修後、ミーティングで報告するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会の設置あり、参加している。 意見交換や勉強会等でネットワーク作りと向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新たな環境に入るとき、誰もが不安を抱くので、その人らしさを失うことなく、穏やかに生活できるよう寄り添う機会を増している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の生活歴や状況、家族関係を把握することで、家族との細かい話し合いで、信頼関係を築いている。 訪問時や電話で状態の報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が求めているものは何か、状況の共有と状況の変化を敏感にキャッチするように心がけているとともに、その時に合ったサービス提供が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ここがあなたの家ですよ」一緒に暮らしましょうという思いを込めて、関わりと和やかな関係に努めている。 時として、介護者としての立場が求められる時もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来館時に、話し合う機会を持ち、互いに問題点や要望を共有するようにしている。 家族との連携を築きながら一方的にならないようにしている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会、また便りを出して馴染みの関係つくりに努めている。 電話をかけたりすることもある。	友人の訪問や行きつけの美容院に行くことを楽しみにしたり、以前からのかかりつけ医の受診にも出かけている。併設のデイサービスを利用している友人と会うことを楽しみにしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれに人生観や性格の違いあり、口論になることもある。 話し合いや席替えを行っている。 孤立しないように、細目に声かけを行い仲間作りに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度の退所者はないが、以前退所時は、次の施設の紹介や家族との関わりは続けていた。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中から、本人の思いや希望を見出すように努めている。 帰宅願望や暴言もあるが、家族とともに支えあうことが必要とされる。	おやつ時や食事中、また、入浴中などリラックスしている時に要望や希望を聞いている。聞き取りが困難な利用者に関しては家族に要望を聞いている。状態観察のため検温を一日に6回希望され実施している例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や、本人との話の中から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護の中から、体調、心理状態の変化に気を付け、本人の能力に応じて支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当制を実施し、3カ月ごとの目標を職員が共有して支援している。 また、ご家族の要望を取り入れながら計画に沿って介護にあたっている。	利用者や家族の要望や希望を取り入れた計画を作成している。ミーティング内で現状に即した計画目標を話し合い実践している。3か月ごと又は状態の変化時にミーティングで話し合い見直ししている。計画の実績は介護日誌に記載し確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌への記録、申し送りやミーティングにおいて、問題を共有している。 また、今後の課題の検討も行ったいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況の変化に合わせて、その時のニーズを見極め、申し送りにて職員に周知、共有に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の支援、神社への散歩、敬老会への参加、幼稚園児との交流、喫茶、外食等を通じて社会への参加に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を踏まえて、かかりつけ医を受診している。 職員が家族の代わりに同行している。 また、入所者の中には訪問医の往診を受けている人もいる。	以前からのかかりつけ医に職員が付き添い受診している。家族の希望で往診や訪問看護の要請もしている。予防接種や風邪などは提携医の協力を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良や変化は、その都度申し送りとともに、NSに報告し、支持を受け介護にあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ご家族との情報交換、退院時には医師、家族、職員との話し合いのもと、サマリーに基づいた介護を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との連絡を密にして、共に支えあう体制つくりを目指している。 家族の要望を取り入れながら、対応が遅れないよう努めている。	事業所としては看取りをしていく方針である。今までターミナルまで支援した事例はないが急変時などは職員に看護師がいて相談している。重度者には個別で往診を依頼している。	重度化したときの事業所の受け入れに不安を抱いている家族もいる。事業所の方針の説明と看取りへの希望を確認をすると共にﾀｰﾐﾅﾙの対応手順書の作成に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修、社外研修を受け、急変時の対応を学んでいる。 施設内での対応方法は職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練（夜間発生を想定して）を実施している。 地域との協力体制が求められる。 消防士の参加を受け、助言をもらっている。 消火訓練の実施も行っている。	全職員が1年に一度は災害訓練に参加するようにしている。スプリンクラーを23年9月に設置した。備蓄は水と米を確保している。 市には福祉避難所として申請している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格の違いにより、その人に合わせ寄り添う介護をモットーにしている。 尊厳と親しみを込めて行っている。	会話は時と場所、相手に合わせ人生の先輩として尊厳をもって話しかけている。難聴の利用者にはジェスチャーを交え笑顔で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えは言葉だけだはなく、別の形（態度）で現れたりするので、見逃さないように心がけ、本人の自己決定が出来る支援と状況づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間以外は、その人のペースに合った一日の生活リズムになっている。 意欲低下にならないよう気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月毎の散髪や、毎日の着替えも清潔をモットーにしている。 お化粧を楽しみにされる方もいる。 自分で出来ない方には、職員が整容の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の献立は、配食サービスのため決まっている。盛り付けや配膳、片付けの手伝いを一緒にやっている。 また、喫茶店や外食、おやつ作りは、楽しみの一つである。	食事をしながら利用者と好みの調理方法について話し合ったりして、楽しい雰囲気が感じられる。身体状況に合わせミキサー食も対応している。重度者の食事介助しながら他の利用者の見守りもしている。出来る方は下膳も行っている。外食や喫茶店へ外出するなど利用者は楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスやカロリー計算は考えられているが、個人の摂取量に違いがある。 各自の摂取量（食事、水分）の把握に努め、食事形態もその人に合わせて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けと、その人に合ったケアを行っている。 マウススポンジやガーゼによるケアを行い、誤嚥にならないよう支援している。 中には、時々拒否もみられる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの違いを考慮し、定期誘導等を行い、出来る限りトイレでの排泄を心がけている。 夜間の排泄も声かけを行い、不快感を軽減している。	夜間はおむつを使用している利用者を朝リハビリパンツに交換しトイレで排泄できるように支援している。頻尿の利用者には昼間　外気浴や運動して夜間良眠出来るような支援もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事量の把握と排泄のチェックを行い、体調管理を行っている。 散歩や水分補給を促し予防している。 整腸剤の内服も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴となっている。 夕方の入浴を希望される方もあるが、業務の都合上、午後から行っている。 入浴の順番にも気をつかっている。 入浴拒否も時にはある。	家庭浴槽で洗い場は脱衣所から段差がある。重度者にはシャワーチェアーでスロープを使い浴室まで移動し2人介助で湯船に入り、入浴することの爽快感を味わってもらうようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活のリズムに合わせ、休息を促している。 外気浴、風通し、布団干し等を行って、心地よい睡眠がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	夜勤帯の職員が管理を行っている。 処方された新しい薬は、Drに聞いたり調べて理解するようにしている。 毎日のバイタルチェックで体調の変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来ることを喜びと張り合いに結びつくような支援に努め、手伝いをしてもらっている。 嗜好品についても、飲み物も多種そろえてお出ししている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	介護度に大きな差があり、全員での外出は困難になりつつあるが、職員の協力により花見や外食、喫茶、イルミネーション見学等行っている。 神社に散歩に出かけたり外気浴や青空喫茶等も行っている。	日常的には外庭でお茶を飲むなど外気浴をしたり、近所の神社まで散歩等をしている。 家族と墓参りに出かけている。季節的なイベント等の外出時の車中など目的地に着くまでの過程も、歌を歌ったりガイド役になったり楽しんでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は出来ないので、バザーや神社へのお参り時には本人に小銭を渡して自分で好きなものを購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎによる会話（知人、家族）ができるようにしている。 また、自分の書いた絵手紙で近況報告の便りを出すこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備を行い、清潔に務めている。 陽ざし、空気の入れ替え、窓からの眺め等で季節感を味わい、皆が団らんの居場所作りを行っている。	広いﾘﾋﾞﾝｸﾞには陽がさし明るい。利用者の写真や職員の紹介写真があり、壁面飾りにも季節感が感じられる。毎朝窓を開け換気している。汚物は早めに処理し不快臭に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席が決まっており、また、自由に移動する空間がある。 ソファでは、おしゃべりや洗濯物たたみ等を行い、気楽な時間を過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人の生活スタイルに合った寝具（ベッド、布団）で使い慣れた家具を置くことで安心して生活できるようにしている。	ﾍﾞｯﾄﾞ、ｶｰﾃﾝ以外は本人の使い慣れたものにしている。本人や家族の希望で布団でも対応している。以前作成した手芸品が掲示してあったり仏壇があったりする。職員が作成した誕生メッセージも掲示してある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な空間作りと共有の場の温かい関係作りの中で、自分の出来ることを支援し、自分の居場所「ここがあなたの家ですよ」と感じてもらえる支援を全員で行っていきたい。		